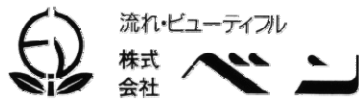


KT-7型  
ストレーナ

〔 製品記号 〕  
KT7-M

# 取扱説明書



## はじめに

この取扱説明書は、K T-7型ストレーナの取扱方法について記述しています。本製品をご使用前に熟読の上、正しくお使いください。

この取扱説明書は本製品を設置、および使用される方々のお手元に確実に届くようお取りはからい願います。

### — 製品の危険性についての本文中の用語 —



**警告** : 取扱を誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。



**注意** : 取扱を誤った場合、使用者が軽い、若しくは中程度の傷害を負う危険が想定される場合、または物的損害・損壊の発生が想定される場合。

### — ご使用にあたっての警告・注意事項 —

本製品のご使用にあたり、人身の安全および製品を正しく使用するために必ずお守りください。



#### 警告

- 本製品は、重量物ですので、配管取付けなどの際には製品本体を確実に支えるなど注意を払ってください。  
※製品を落としますと、怪我をする恐れがあります。
- 本製品を配管取付け後、流体を流す前に、配管末端まで流体が流れても危険のないことを確認してください。  
※流体が吹出した場合、怪我をしたり、高温流体の場合、やけどをする恐れがあります。
- 製品にはむやみに触れないようにしてください。  
※高温流体の場合、やけどの恐れがあります。
- ネットの清掃にあたっては、ストレーナ前後の止弁を閉止し、製品内の圧力が零になっていることを確認すると共に、高温流体の場合は、本体を素手でさわられるまで冷してから行ってください。  
また、分解時、製品内に圧力が残る場合は、ホントイ側面上部のプラグ(R3/8)の一方を取り外し、付属のニップル・ボールバルブを取り付けてください。  
※流体の吹出しにより、周囲を汚したり、怪我や高温流体の場合はやけどをする恐れがあります。



#### 注意

- 本製品の分解にあたっては、熟練した専門の方（設備・工事業者の方など）が実施してください。  
一般のご使用者は分解しないでください。ネットの目詰まりや異常がある場合は、設備・工事業者または、当社に処置を依頼してください。
- 本製品を使用する前に、使用条件と1頁の仕様とを確認してください。使用条件が仕様を満足することを確認の上、製品をご使用ください。
- 本製品の機能・性能の確認のため、日常点検、定期点検を実施してください。

目次	頁
1. 製品用途、仕様、構造 .....	1
(1) 用途 .....	1
(2) 仕様 .....	1
(3) 構造 .....	2
2. 設置要領 .....	3
(1) 製品質量 .....	3
(2) 要領 .....	3
3. 保守要領 .....	4
(1) 日常点検 .....	4
(2) 定期点検 .....	4
(3) 消耗部品と交換時期 .....	4
○分解・組立要領 .....	5
(1) 分解 .....	5
1) 分解 .....	5
2) 清掃 .....	5
分解図 .....	6
(2) 組立 .....	7
○サービスネットワーク	

## 1. 製品用途、仕様、構造

### (1) 用途

KT-7型ストレーナは、主として液体用に用いられるストレート形ストレーナで、配管内に混入した塵埃、砂、スケールなどの異物をネットで除去し、配管系の機器などを保護する目的に使用されます。



#### 注意

給水装置に使用する場合は、水道法性能基準適合品のKT-1CN型、KT-1PN型（呼び径50～200）を使用してください。

### (2) 仕様

型式	KT-7型	
製品記号	KT7-M	
呼び径	80～200	
適用流体	水・温水・液体・気体	
適用圧力	1.0MPa以下	
流体温度	5～90℃	
端接続	JIS 10KFFフランジ	
材質	本体	FCD450
	ネット	SUS304
網目	60メッシュ内張り <sup>注1</sup>	
許容差圧	0.1MPa	
耐圧試験	水圧にて1.5MPa	
塗装	内外面：カチオン電着塗装	

注1. 20、40、80、100メッシュ、パンチ網も製作します。

#### オプション

1. 現場形回転表示による目詰り検知器（現場形回転表示器）
2. 遠隔形発信機による目詰り検知器（遠隔形発信器）
3. 内部点検窓（内部目視点検窓）
4. 磁気吸着器（鉄系ゴミ吸着による網目保護）



#### 注意

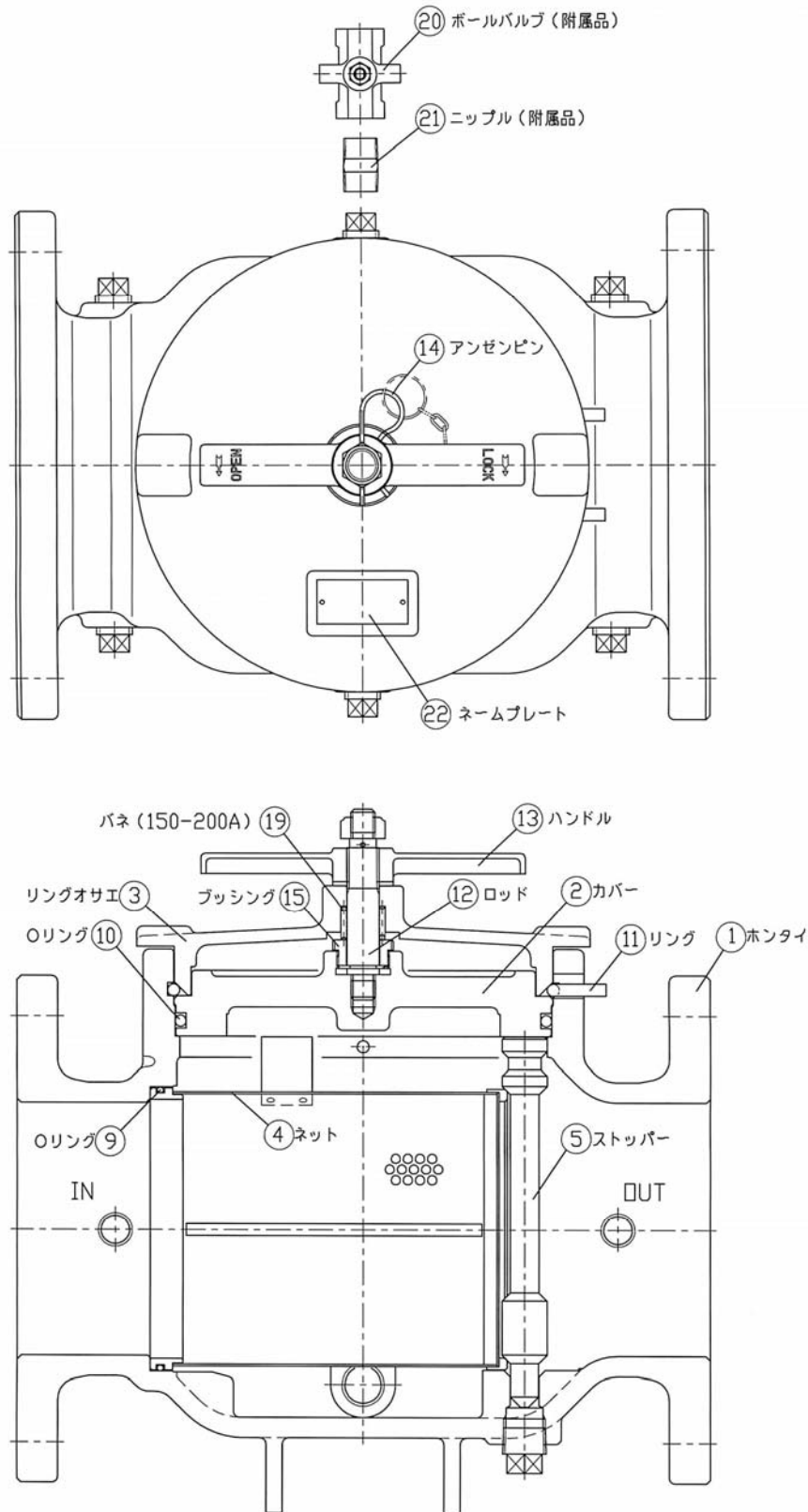
- 上記仕様が使用条件を満足することを確認してください。
- 上記の仕様を超えての使用はできません。

銘版



### (3) 構造

KT-7型ストレーナの構造は、カバー、ネットの固定に工具を必要としない独自の構造を採用しています。



注) 部品名・部品番号は呼び径によって異なる場合があります。

部品交換などの手配の際は、部品名・部品番号は納入図をもとに指示してください。

## 2. 設置要領



### 警告

本製品は、重量物ですので、配管取付などの際には製品本体を確実に支えるなど注意を払ってください。  
※製品を落としますと、怪我をする恐れがあります。

### (1) 製品質量

呼び径	80	100	125	150	200
質量(kg)	19	22	38	50	81

### (2) 要領

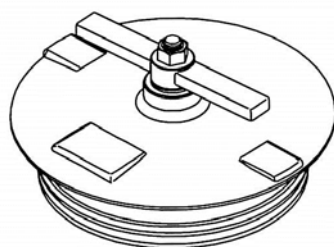


### 注意

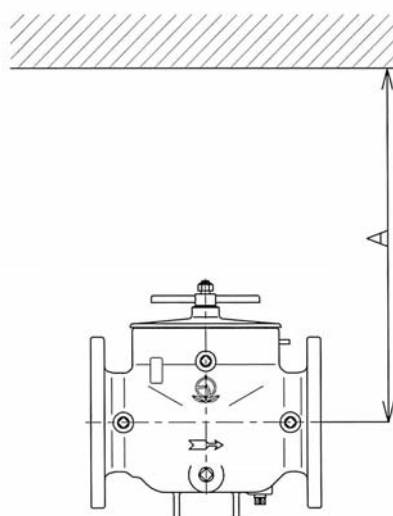
- 輸送中などに製品への異物混入を避けるため、入口・出口にキャップ、あるいはシール蓋をしてあるものは、それらを外してから取付けてください。
- 製品を配管に接続する際には、製品の流れ方向を示す矢印と、流体の流れ方向を合わせて取付けてください。また、分解時、製品内に圧力が残る場合は、ホントイ側面上部のプラグ（R3/8）の一方を取り外し、付属のニップル・ボールバルブを取り付けてください。  
※誤った取付けをした場合、製品の機能を発揮できません。
- 製品には、配管の荷重や無理な力・曲げ、および振動がかからないよう配管の固定や支持をしてください。  
※配管の固定や支持をしない場合、製品の損傷の原因となります。
- 凍結の恐れのある場合は、水抜きや保温などをしてください。  
※凍結による破損の恐れがあります。

- 1) ストレーナ前後には、分解時に流体の流入を止めるための止弁を設けてください。
- 2) 分解点検のため、ストレーナの上の空間は、下表の寸法以上確保してください。

呼び径	80	100	125	150	200
A(mm)	800	800	1000	1000	1000
カバー式の質量(kg)	4	4.5	8	9.5	19



カバー式



### 3. 保守要領



#### 警告

ネットの清掃にあたっては、ストレーナ前後の止弁を閉止し、製品内の圧力が零になっていることを確認するとともに高温流体の場合は、本体を素手でさわられるまで冷してから行ってください。

また、製品内に圧力が残ることが想定され、設置時にボールバルブを取付けている場合は、ボールバルブを開にし、製品内の圧力を零にしてください。

※流体の吹出しにより、周囲を汚したり、怪我や高温流体の場合はやけどをする恐れがあります。



#### 注意

- 本製品の機能・性能の確認のため、日常点検、定期点検を実施してください。
- 本製品の分解にあたっては、熟練した専門の方（設備・工事業者の方など）が実施してください。  
一般のご使用者は分解しないでください。ネットの目詰まりや異常がある場合は、設備・工事業者または、当社に処置を依頼してください。
- ネットが目詰まりすると、流量不足や圧力降下などの不具合が発生しますので、入口と出口の差圧（圧力損失）が0.1 MPa位になったらネットの清掃が必要です。

#### （1） 日常点検

点 検 項 目	処 置
流量の出具合 差圧（圧力損失）の増加	目安として入口と出口の差圧（圧力損失）が0.1 MPa以下であること。「分解・組立要領」参照。
ホントイ上部のリングシール部からの外部漏れの有無。	リングの交換。 「分解・組立要領」参照。
カバー一式の取外し、装着時の摺動抵抗の増加。	ホントイとカバー摺動部にシリコングリス等の潤滑剤の塗布。

#### （2） 定期点検

本製品の機能・性能を維持するため、定期的に分解点検を実施してください。

点 検 周 期	1回／年
主 な 点 検 項 目	①ホントイ上部のリングシール部からの外部漏れの有無。
	②ハンドルが円滑に動くこと。
	③ネットの目詰まり。

#### （3） 消耗部品と交換時期

リングは、耐用年数、使用頻度、使用条件等により異なりますが、交換時期の目安は、下表によります。

呼び径	消耗部品	交換時期	要求先
80～200	ネット用リング ⑨	3年以内	(株)ベン
	カバー用リング ⑩	3年以内	

## 4. 分解・組立要領

### (1) 分解

分解には工具を使用しません。ネット清掃の為のウエス（柔らかい布など）、ワイヤーブラシなどあらかじめ用意してください。



#### 警告

- 本製品の分解にあたっては、ストレーナ前後の止弁を閉止し、圧力が零になっていることを確認するとともに高温流体の場合は、本体を素手でさわられるまで冷してから行ってください。また、製品内に圧力が残ることが想定され、設置時にボールバルブを取付けている場合は、ボールバルブを開にし、製品内の圧力を零にしてください。  
※流体の吹出しにより、周囲を汚したり、怪我や高温流体の場合はやけどをする恐れがあります。
- カバーを分解・組立する際は、呼び径が大きいものは重量物ですので、注意してください。  
※カバーを落としますと、部品の破損や怪我をする恐れがあります。



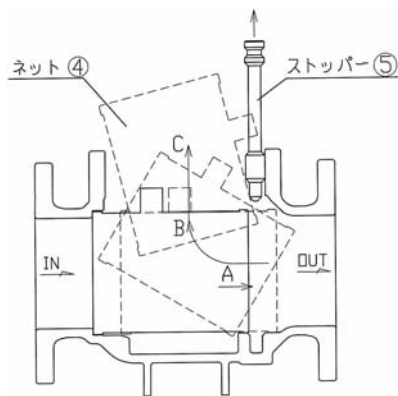
#### 注意

本製品の分解にあたっては、熟練した専門の方（設備・工事業者の方など）が実施してください。一般のご使用者は分解しないでください。ネットの目詰まりや異常がある場合は、設備・工事業者または、当社に処置を依頼してください。

### 1) 分解

（2頁の構造および6頁の分解図を参照）

手順	分解要領
1	アンゼンピン ⑭ をロッド ⑫ から抜き取り、ハンドル ⑬ をOPENの方向に回し、Uナット ⑰ に当たるまで緩めるとリング ⑪ の突起部が縮みます。（8頁の手順6の左図参照） 注：リング ⑪ の突起部が縮まらない場合は、突起部先端を指で内側に縮めてください。
2	ハンドル ⑬ を両手で掴み、均等に持ち上げカバー一式をホンタイ ① から取外します。
3	ストッパー ⑤ を上方に抜き取り、ネット ④ の取っ手を掴み、ホンタイ ① の出口側に移動し、ネット ④ の入口側を上にして持ち上げ、ホンタイ ① より取出します。（右図A、B、Cの手順）
4	カバー一式は、通常の分解清掃の際は分解する必要はありません。



※カバー一式は6頁の分解図を参照ください。

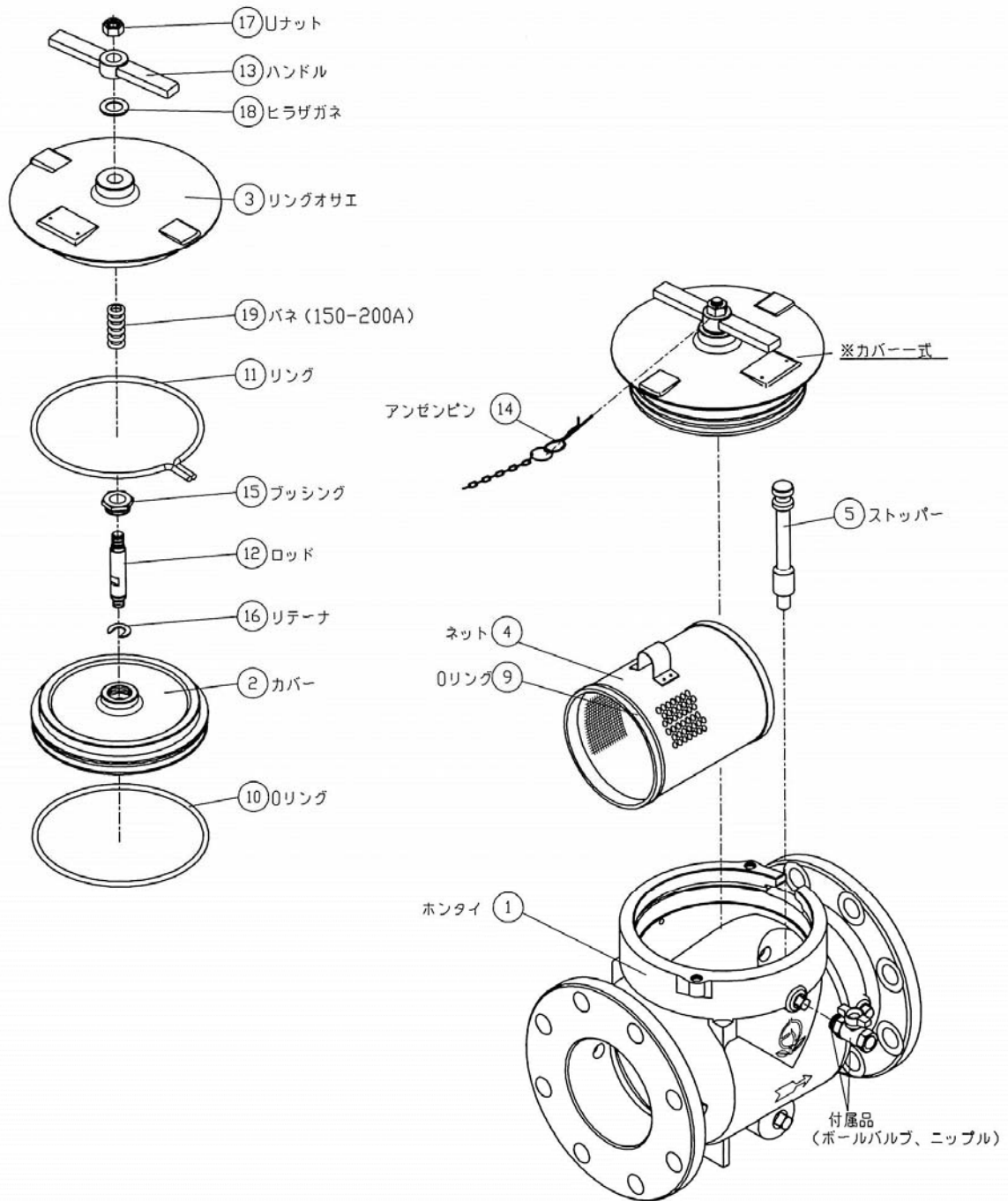
### 2) 清掃

手順	要領
1	各部品をウエスで清掃します。
2	ネット ④ に付着している塵埃、砂、スケールなどをワイヤーブラシなどで落とし、洗浄します。
3	Oリング ⑨、⑩ が破損している場合は新品と交換します。
4	ネット ④ が変形している場合は、新品と交換します。



# 分解図

※カバー式分解図（通常は分解しません。）



- 注1) 呼び径150、200Aには、ロッド⑫の外周にバネ⑬が装着されます。
- 注2) 分解時、製品内に圧力が残る場合は、ボールバルブを取付けてください。
- 注3) 部品名・部品番号は、呼び径によって異なる場合があります。部品交換などの手配の際には、部品名・部品番号は、納入品図面をもとに指示してください。

## (2) 組立


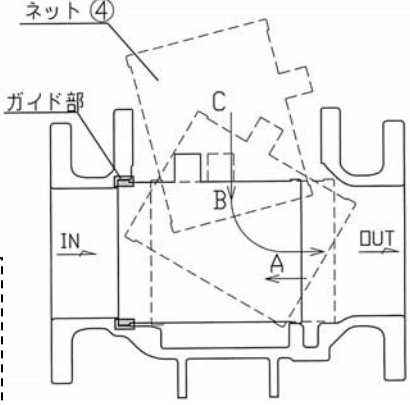
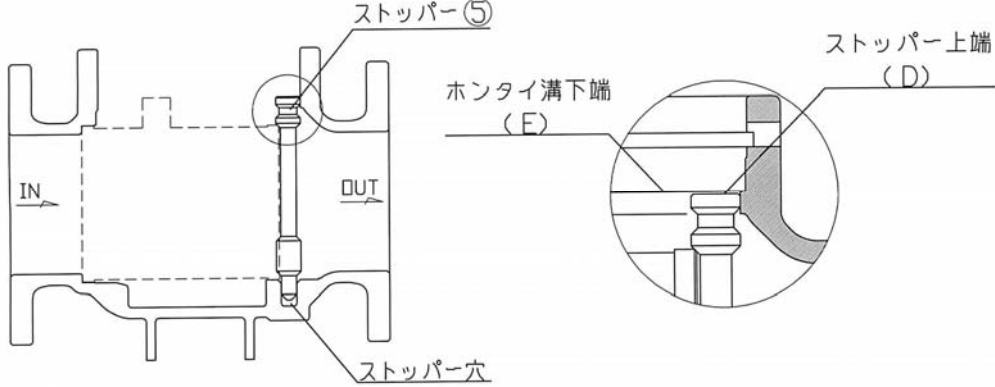

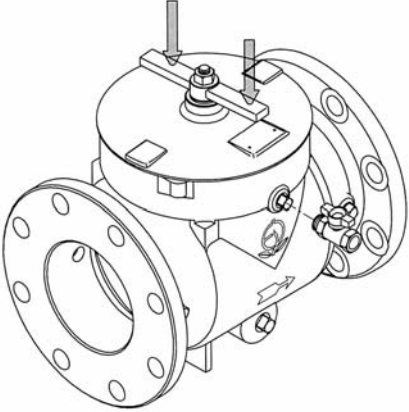


### 注意

組立にあたっては、部品などは確実に組付け、下記の要領で行ってください。

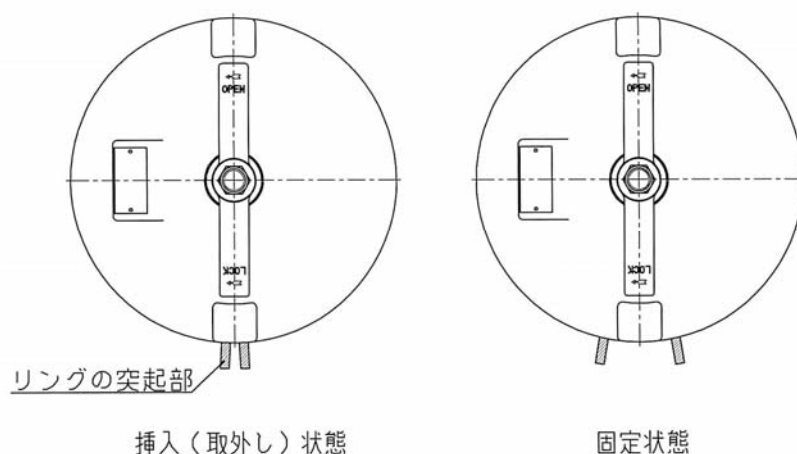
組立は、分解と逆の手順で行います。

(2頁の構造および6頁の分解図を参照)

手順	要領	
1	損傷の激しい部品は、新品と交換します。	
2	<p>ネット④に変形がないことを確認後、ネット④の取っ手を掴みネット④の底を下にし、ホントイ①の出口側に向けて挿入後、入口側に移動します。 (右図C、B、Aの手順)</p> <p>この時、ネット④はホントイ①のガイド部に確実にはめ込んでください。</p> <p> 注1：Oリングには必ずシリコーングリス等の潤滑剤を塗布してください。潤滑剤を塗布しないと、Oリングの破損や組付不能の原因となります。</p>	
3	<p>ストッパー⑤をホントイ①底部のストッパー穴に差込みます。この時、ストッパー⑤の上端(図示D)がホントイの溝下端(図示E)より出ていることを確認してください。</p>	
4	<p>カバー式のリング⑪の突起部をホントイ①の上部出口側の溝の位置に合わせて挿入してください。</p> <p> 注1※同上</p>	
5	<p>カバー式を水平にし、ハンドル⑬を均等に押し付けてください。</p>	

前頁からの続き

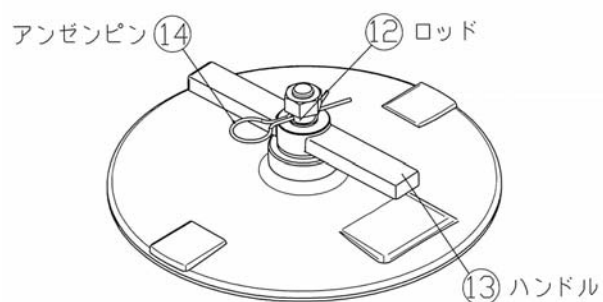
- 6 ハンドル ⑬ をLOCK方向に固く締まるまで回します。ハンドル ⑬ を回すと、リング ⑪ の突起部が広がり、カバー ② が固定されます。



カバー ② の固定確認とハンドル ⑬ の回り止め防止の為、ハンドル ⑬ の上に開口したロッド ⑫ のピン穴にアンゼンピン ⑭ を挿入してください。

注：アンゼンピン ⑭ が挿入出来ない場合は、固定状態になっていないので、ハンドル ⑬ を緩めて手順5から繰り返してください。

7



以上で組立は終了です。

製品及び本取扱説明書に関するお問合せは下記へお願いします。

サービスネットワーク

担当部署	サービス区域	
☆東京営業所 横浜出張所	東京、神奈川	品質保証課 TEL03(5480)6650
☆西関東営業所	神奈川、東京、山梨	
☆東関東営業所	千葉、茨城	
☆北関東営業所	埼玉、栃木	
☆関東越営業所 新潟出張所	群馬、長野、新潟	
☆仙台営業所 いわき出張所	宮城、山形、福島	
☆盛岡営業所	岩手、青森、秋田	
☆札幌営業所	北海道	
☆大阪営業所 岡山出張所	大阪、京都、奈良、和歌山、兵庫、岡山、鳥取、滋賀、三重、 四国全域	
☆名古屋営業所 静岡出張所	愛知、岐阜、三重、静岡	
☆金沢営業所	石川、富山、福井	
☆広島営業所	広島、島根、山口	
☆福岡営業所	九州全域、沖縄	

本 社

〒146-0095 東京都大田区多摩川 2-2-13

TEL03(3759)0170

FAX03(3759)1414

○東日本営業部

☆東京営業所 TEL03(3759)0171  
 横浜出張所 TEL03(3759)0171  
 ☆西関東営業所 TEL042(772)8531  
 ☆東関東営業所 TEL043(242)0171  
 ☆北関東営業所 TEL048(663)8141  
 ☆関東越営業所 TEL027(252)4248  
 新潟出張所 TEL025(280)0978  
 ☆仙台営業所 TEL022(287)6211  
 いわき出張所 TEL0246(36)7558  
 ☆盛岡営業所 TEL019(697)7651  
 ☆札幌営業所 TEL011(875)8007

○西日本営業部

☆大阪営業所 TEL06(6325)1501  
 岡山出張所 TEL086(902)3060  
 ☆名古屋営業所 TEL052(411)5840  
 静岡出張所 TEL054(275)2705  
 ☆金沢営業所 TEL076(261)6989  
 ☆広島営業所 TEL082(230)4511  
 ☆福岡営業所 TEL092(291)2929

○工場

岩手工場 TEL019(697)2425  
 相模原工場 TEL042(772)7341